

# 知床の森から

平成9年3月 第47号



知床森林支店 ☎ 099-41 知床森林センター ☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160



オオワシ

## 雪の森ってすてき！

----- 歩くスキーで自然観察 -----

知床森林センターが主催する「第13回森とのふれあい」は、2月23日（日）に実施しました。

場所は斜里町市街地の北側にあって、オホーツク海に沿って長く延びている国有林です。

前日までの吹雪は朝にはおさまり、風のないおだやかな天気となりました。

参加者8名はすべて地元斜里（しゃり）町民です。うち6名が女性で、そのほとんどがスキーで森の中を歩くのは初めての体験という方々です。

斜里町博物館で準備をととのえて出発しました。

町の公園グラウンドを通過し国有林に入りました。イベントコースは針葉樹や広葉樹の林を通ります。地形は入りくんで平坦・傾斜と変化にとんでいます。下りでは実力以上（？）を発揮し転ぶ人もおりました。そのたびに励ましの声と笑いが森にひびきました。

コースを進みながら所どころでたちどまり、森林インストラクターから森のこと、樹木のこと、60年前に植えられた人工林



などの説明があり、熱心に聞き入っていました。

またキタキツネ・エゾリスの足あとや、新雪をふんわり枝にのせて静かにたたずむ森、やわらかく光る深い雪のコースなどに、みなさんはすっかり魅せられたようで歓声をあげていました。

当日は好天に恵まれて、4キロあまりを2時間程度かかったイベントは無事終了しました。

## 増えているエゾシカ！

～ 自然環境にも変化が ～

知床半島のエゾシカは、増加の傾向にある。毎年、春と秋に実施されているスポットライトセンサスによれば、狩猟や有害駆除が行われない地区（国立公園が大半を占めている）では、有害駆除や狩猟が行っている地区に比べ、ここ数年生息数が増えている。

この結果から、狩猟等はエゾシカの個体数抑制から見るとかなり効果的であるが、生息数の横ばいの地区では、今以上の狩猟圧が

かれば減少する恐れがある。

次にエゾシカ個体数の今後の動向予測は国立公園などの禁猟区域では増加率の低下は今のところみられていない。また、餌資源については知床岬、岩尾別、真鍮などの海岸、河岸斜面などの越冬地で、シカの好む高茎草本の衰退、ササ丈低下、ニシなどの広葉樹の樹皮食による枯死といった植生の変化がみられる。一方でここ数年、

当歳子の小形化、春先の自然死亡率の上昇など、個体数が許容の限界を暗示させる現象も確認されている。

エゾシカはもともと周囲の環境（餌、越冬環境、気象条件など）の良否によって、急激な増減を繰り返す傾向があり、これらの環境悪化により急激な減少が起きる可能性も捨てきれない。今後とも生息頭数の増減とそれがおよぼす自然環境の変化については観察を続けていく必要がある。

資料の提供は  
斜里町役場です

エゾシカの生息動向（秋期スポットライトセンサスの結果）

